

受業焉。○中於後隨使歸朝臨訣、三藏以所持舍利經論咸授和尙而曰、人能弘道、今以斯文附屬、又授一鎧子曰、吾從西域自所將來、煎物養病、無不神驗、於是和尙拜謝啼泣而辭、及至登州、使人多病、和尙出鎧子、暖水煮粥、遍與病徒、當日即差、既解纜順風而去、比至海中、船漂蕩不進者七日七夜、諸人怪曰、風勢快好、計日應到本國、船不肯行、計必有意、卜人曰、龍王欲得鎧子、和上聞之曰、鎧子此是三藏之所施者也、龍王何敢索之、諸人皆曰、今惜鎧子不與、恐舍船爲魚食、因取鎧子拋入海中、登時船進還歸本朝。

〔日本靈異記〕中孤娘女憑教觀音銅像示奇表得現報緣第卅四

牡飢言我飢賜飯、妻言今進、起竈燃火、居于空廬、押頰而蹲、入于空屋、徘徊大嗟、  
龐奈倍

〔伊勢物語〕下むかし男、女のまだ世へすとおぼえたるが、人の御もとに玄のびてものきこえての  
ちほどへて、

あふみなるつくまの祭とくせなんつれなき人のなべの數みん

○按ズルニ、近江國坂田郡筑摩神社ノ祭祀ニ、婦女ノ土鍋ヲ戴キテ供奉スル事ハ、神祇部雜祭  
篇筑摩祭條ニ詳ナリ、

〔相良文書〕三十六慶長拾一季丙午江戸御屋形作日記○中

五月十二日 永樂貳貫九百九十三文買にて 遣方

同日 一永樂五十文 なべ壹ツ○中

一永樂五十文 なべ壹ツ○中

〔東武實錄〕寛永三年九月行幸ノ日

主上御膳黃金白銀製調○中 御内々ノ御膳○中 御鍋、蓋アリ、一對、黃金製○

〔玉露叢十三〕一同年○寛永十六年ニ江戸大火、此時御城回祿ス、御城御普請出來シテ、御移徙ノ時、御一門